

## コラム 第3回国連防災世界会議における ICHARM の活動について

平成27年3月14日から18日にかけて、第3回国連防災世界会議が宮城県仙台市で開催されました。国連防災世界会議とは、国際的な防災戦略を策定する国連主催の会議であり、前回は平成17年に神戸市で開催され、国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組(HFA)」が採択されました。今回の会議において、ICHARMは、表-1のように積極的に各ワーキングセッションやパブリックフォーラムに参加し、世界への発信を行いました。

例えば、3月14日のワーキングセッション“Risk Identification and Assessment”では、リスク評価への取組みが効果的に行われている世界の5事例の一つに日本が選ばれ、日本を代表して ICHARM 上席研究員がパネリストとして参加しました。パネディスカッションでは、日本での具体事例を踏まえつつ、リスクアセスメントによって事前投資による構造物対策の効果を評価することの必要性や、リスク評価に必要となるデータの入手および管理の重要性について発表するとともに、ICHARM が国際協力で果たしている役割について紹介しました(写真-1)。また、3月15日のパブリックフォーラム「アジア防災会議2015」では、平成24年7月13日にインドネシア国アンボン島で発生した天然ダムとその決壊に起因する土石流災害について、ICHARM より災害の概要や災害被害軽減のための日本の貢献について説明しました。被災地の村長からは、極めて大規模な災害であったが、わずか3名の犠牲者にとどまったこと、日本の協力に感謝していること等の報告がありました。

また、会議期間中には国土交通省の防災に関する展示『「忘れない」、「守りたい」防災パネル展』の中で、ICHARM の活動紹介を行いました(写真-2)。

同会議は国連加盟国(193か国)のほとんど(187か国)が参加し、各国首脳、閣僚、国際機関代表、国際認定NGOなど6千5百人が本体会議に参加しました(UNISDR発表)。今回の会議では、新たな国際防災指針となる「仙台防災枠組」が採択され、今後各国はこの枠組みのもと、世界の災害軽減に取り組むこととなります。ICHARM も関係機関と連携しつつ、この枠組みの具体化への各国の取組みを支援してまいります。

表-1 ICHARM が参加した各ワーキングセッションやパブリックフォーラム

日時	セッション名	参加者	主催	場所
<b>本体会議：ワーキングセッション</b>				
3月14日(土) 13:00-16:30	ワーキングセッション “Risk Identification and Assessment” (リスクの特定と評価)	(パネリスト) 澤野上席研究員	UNISDR,WMO,UNESCO,国土交通省,ICHARM,他	仙台国際センター 萩ホール
<b>パブリックフォーラム</b>				
3月14日(土) 13:45-15:45	欧州での洪水-新たなリスクとレジリエンス構築のための戦略	(モデレーター) 竹内顧問	German Committee for Disaster Reduction	東北大学川内北キャンパス
3月14日(土) 13:00-20:00	Disaster Management Policies ・ Preparedness against Large Tsunamis and Earthquakes etc.	(発表) ICHARM 博士コース学生2名・修士コース学生3名	政策研究大学院大学(GRIPS), UNESCO	AER ガーデンシティ仙台
3月15日(日) 13:00-16:00	アジア防災会議2015 -アジアにおける兵庫行動枠組(HFA)の実施成果の確認とポストHFAの核となる行動の特定	(プレゼン) 徳永上席研究員	内閣府、アジア防災センター、UNISDR,他	TKP ガーデンシティ仙台句当台
3月16日(月) 18:00-20:00	統合的かつレジリエントなデルタ管理に向けての国際同盟構築	(プレゼン) 今村上席研究員	国土交通省他	東北大学仙台川内北キャンパス
3月17日(火) 10:00-12:00	BOSAI でつながる日本と世界 -防災国際協力	(パネリスト) 小池センター長	JICA	東北大学川内北キャンパス
3月14日~ 18日	国土交通省『「忘れない」、「守りたい」防災パネル展』	栗林主任研究員、カリナ専門研究員	国土交通省	AER ガーデンシティ仙台



写真-1 ワーキングセッションの状況  
(右から2人目が澤野上席研究員)



写真-2 国土交通省が展示したパネル